

①トラックデータ連携の仕組みを確立

項目	内容
取組内容	日本版FMS標準及びコネクタを活用し複数OEMのトラックデータを収集し 運行管理可能な仕組み（API標準規格化）を確立、これに基づく統合運行管理の運用検証を実施
取組意義	データ取得ハードル引き下げによる中小運送事業者含めたデジタル化促進／運行管理普及による安全性向上
目的	【阻害要因】 OEMごとに車両からの情報がバラバラで、複数OEM車両の一元的な運行管理ができない → 車両運行管理データ標準化・収集・利活用による複数OEM車両の一元的な運行管理の実現
期待効果	対運送事業者： 複数OEMトラックの運行情報を 一元的な画面で確認可能に ／ 労働環境改善・稼働率向上・燃料費低減 ／ BCP対応 商用車OEM： トラックデータ仕様や活用方法の標準化による、当該分野における 研究開発投資の効率化
アウトプット	トラックデータ連携の仕組み(=API標準規格化)の開発/標準コネクタ仕様の決定
取組体制	ITインフラ事業者、荷主、運送事業者、商用車OEM、架装メーカー、デジタコメーカー

